

淮上早發

淮上早く発す わいじょう

澹月傾雲曉角哀

澹月雲に傾き 曉角哀し たんげつ かたぶ ぎょうかく

小風吹水碧鱗開

小風 水を吹いて 碧鱗開く しょうふう へきりん

此生定向江湖老

此生定めて 江湖に向いて老いん さだ お

默數淮中十往來

黙して数う 淮中に 十たび往来せるを かぞ わいちゆう と

【語釈】

○元祐七年（一〇九二）五十七歳の作。この年二月、揚州の知事ならびに淮南東路（今の江蘇省北部地区）の長官を命ぜられ、三月、潁州より赴任の途中でこの詩を作った。○淮上：淮は今の淮河の水路。○早発：早朝の出発。船を出したのである。

○澹月：澹は淡に同じ。あわい色の月。○曉角：角は角笛、兵士が吹くもの。曉とあるから、朝を知らせるもの。○碧鱗開：鱗というのは水の小波の形容。

○向江湖：江は揚子江。湖はその流域にあるいくつもの湖水。向は、存在の場所を表わす前置詞で、このような場合方向の意味をほとんど有しない。

○十往來：蘇軾は熙寧四年（一〇七一）に杭州の副知事として都の開封から赴任した時に、始めてこの淮河を通り、七年（一〇七四）に密州へ赴任す時そのほか、転任などでこの水路を通ることは、ちょうど十度めであった。

【解釈】

光うすれた月は雲まにかたぶき、暁を告げる角ぶえの音は悲しげに、そよ風は水面をわたり、うろこのような碧のさざ波が立ち始める。私の一生は、おおかた、長江とみずうみのあいだで老いはてるのだろう。心の中で数えてみる、淮河のゆききはこれで十ぺんめだなあ、と。